

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	日本の環境分野を先導する多くの先見的・先端的な研究がなされていることに敬服する。さらなる成果発信を期待する。	ご評価いただきましてありがとうございます。ご期待に沿えるよう、今後も研究および成果発信を推進してまいります。
	機械学習などの最新の技術も導入し、タイムリーな課題にも取り組んでおり、全体として大変優れていると評価できる。	
	政策対応という点で、今の時代は、公共政策としての環境省をはじめとした省庁への政策貢献とともに、民間における政策・戦略対応も必要。	公共政策への貢献だけでなく、企業や非政府・非営利団体など、より幅広いステークホルダーのニーズに応えるため、連携推進部を新たに設けたのが今期の一つの目玉です。今期に資金提供型共同研究実施のための規程改正や産学連携コーディネーターの配置などの制度整備を行ってきており、民間との連携をさらに進めてまいります。
	国立環境研究所の使命として「真の社会ニーズに対応した目的志向型研究」が目指されている。この点、自然科学系面での説明が中心で、学際的研究・人文社会分野の研究側面が、研究の概要ご説明からは、やはりわかりにくかった。「真の社会ニーズ」をどのようにとらえ吸い上げようとしているかについて、多様な社会グループと双方向のコミュニケーションをとりながらニーズを吸い上げる必要があると認識している。こうした点の配慮が、研究デザインにどのように反映されているか、という点についてのご説明や発展も今後期待したい。	「真の社会ニーズに対応した目的志向型研究」は50年前の国立公害研究所としての創立の礎となった設立準備委員会報告書で謳われた理念であり、同レポートでは「基本的には最も基礎となる自然科学的方法を主とすべきであるが、環境問題は同時に社会および経済的側面も多くもっていることを留意する必要がある。」と記載されていました。同レポートで言及された「システム工学的アプローチの重視」は社会システム分野を中心に継承できていると考えていますが、人員の制約の中での人文社会分野へのさらなる展開は以前からの懸案課題です。第5期中長期計画の準備段階でのステークホルダー会合を、第6期に向けて再度開催することを検討中であり、真の社会ニーズの把握の一助としたいと考えています。

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
今後への期待など	<p>将来を見据えて、新たな環境問題に対応するべく、創発的・独創的な萌芽研究を実施できるフレキシブルな分野の提案があれば、それらを受け入れられる組織を次期または将来の中長期に新設することを検討されると良い。</p>	<p>創立以来の「真の社会ニーズに対応した目的志向型研究」という理念に沿って、目先のニーズ対応だけでなく、将来を見据えた創発的・萌芽的研究が柔軟に実施できるよう、次期中長期計画の立案、組織構成の参考とさせていただきます。</p>
	<p>そろそろ次期中期目標期間の研究プログラム課題についての議論を始めなければならない時期だと思う。それに繋がりうる創発的・独創的な新しい研究の芽は少しずつ育ちつつある。</p>	<p>基礎・基盤的取組から次期のプログラムにつながる芽が育つような研究環境を維持することも含め、基礎・基盤的取組とプログラムとして取り組む課題との関係を明確に意識して次期中長期計画の立案に臨みたいと考えています。</p>
	<p>基礎・基盤的取組に関する多くの理解を進めることが、リテラシーの向上につながり、社会的実装に繋がることと考えられることから、小中学生や高校生を含めた教育現場との連携や、地域との連携、大学を含めた国内外の研究機関との連携などが進められることを期待したい。</p>	<p>発信先を意識しながら研究成果を幅広い層に届けることで、リテラシーの向上を通じて社会実装に繋げることは重要であり、小学生をターゲット層とした施設公開などの広報活動、対話活動などでも意識して取り組んでいます。地域との連携という点では、地元つくば市の気候市民会議の共催などの取組があり、大学とは連携大学院制度や非常勤講師としての教育への貢献に努めています。</p>
	<p>自由な発想からの基礎研究、応用研究は重要であるが、国環研は研究者の人数や予算が限られているので、プログラムと連携して、的を絞った研究を実施している今の体制は高く評価する。環境省・他省庁の政策担当者との連携（ワークショップや勉強会）などが若手研究者レベルで実施できると尚良い。</p>	<p>審議会、検討会等で接点がある中堅層以上に比べると、若手研究者レベルでの環境省等の中央官庁の政策担当者との連携・協働の機会は限られていますが、環境省との定期的な情報交換の場や、交流人事で在籍する環境省の行政系職員を介するなどして問題意識を共有し、今後の政策対応研究の一助としたいと考えます。</p>
	<p>今後も大学ではできない政策や国際的プレゼンスにつながる研究を中心に進めていただきたい。</p>	<p>今後も国立研究所としての役割を果たせるよう、政策や国際的プレゼンスにつながる研究に邁進してまいります。</p>

気候変動・大気質研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	学術的にも、気候変動対策立案への情報入力としてもインパクトが高い成果が得られ、IPCCなどの国際活動への高い貢献度など国際的にも存在感のある研究を展開している。また、学際・異分野融合の成果がいくつか得られ、かつさらなる成果の見込みもあるのは、高く評価したい。	本取組について評価いただき有難うございます。引き続き研究の進展に努めます。
	シミュレーションデータや、リアルタイムの推定値公開など、社会に向けたデータ公開は学术界だけでなく、社会的にも大きな意義があると考えられ、高く評価したい。	データ公開の社会的意義の点、ご助言ありがとうございます。今後、データの価値を宣伝することにもより留意してまいりたいと思います。
	GHGとSLCFの排出量のインベントリ間のギャップは各国でどの程度あるでしょうか？検証は大事なステップで、観測精度が高いことが監視機能として重要。	BC, CO, NOx 排出量推計が中国で2倍程度の開きがありました。日本でも（絶対値は中国よりは格段に小さいですが）同様に2倍程度の差があります。CH ₄ は同様に2倍程度の差となっていますが、CO ₂ は10-15%の差（最大～最小）となっており、アジアの国では概ねこのような傾向にありそうです。今後打ち上がるGOSAT-GWのデータ解析で、CO ₂ とNOxの排出インベントリの検証がグローバルに進むことを期待しています。
今後への期待など	研究資源が限られており、対象物質を増やすことはなかなか難しいですが、大気質という意味では、有害物質にも拡張していただきたい。	今後、本プログラムでオゾンやPM2.5の前駆物質でもあるNOxの排出量に関する知見が得られることにより、オゾンやPM2.5の研究・対策への波及効果も大きいと考えています。
	健康評価については、日本では研究層が薄いので、もっと力を入れて良いのではないかと思います。	健康影響への取組も是非やりたいところですが、人的資源の都合上、なかなかそこまでは至っておりません。今後、他プログラムとの連携も含め、検討してまいりたいと考えています。

物質フロー革新研究プログラム

委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
<p>現状についての評価・質問など</p>	
<p>それぞれのプロジェクトの研究が先端的で素晴らしい成果を出している。それぞれのプロジェクト間でも連携が図られ、研究成果を得ている。さらに、それら成果の社会還元も進めていることに敬服する。</p>	<p>プログラムでは各 PJ が Theory of Change を設定して、研究のインパクトの目標とそれを意図したアウトリーチに努めております。各 PJ の研究成果や連携成果、成果の社会還元をご評価いただき大変嬉しく思います。引き続き努力してまいります。</p>
<p>「革新技术に委ねる鉄の脱炭素化は、鉄鋼利用産業の将来操業を不安定化」は、大変厳しい見通しである。これは大変重要な成果なので、一般市民にも公表していただきたい。</p>	<p>日本語での記者発表を行い、その内容を朝日新聞が記事にして掲載しました。日本鉄鋼協会における講演大会や公開セミナーなどを通じた情報発信も予定しております。この他、国環研が企画する公開イベントなどを通じた一般向けの発信も積極的に検討していきたいと思っております。</p>
<p>有害物質隔離構造物の安全性評価は、実社会への貢献も大きく、印象的な成果といえる。</p>	<p>ご評価いただきありがとうございます。今後、現実的な条件を考慮した長期安全性評価が行えるように現地調査、実験等で必要なパラメータを取得していきたいと考えています。</p>
<p>UNEP の水俣条約に関する報告書への知見提供や国際資源パネルの旗艦報告書で 4 編引用されたことは大きな貢献と言える。</p>	<p>UNEP 報告書や国際資源パネルの旗艦報告書は貴重な機会を幸運にも得たと理解しており、その点をご評価いただき嬉しく思います。</p>
<p>今後への期待など</p>	
<p>今後は脱炭素と資源循環とのシナジーやトレードオフの状況明らかにすることを期待したい。例えば車関連産業などの具体的な取組への適応などが重要になると思われる。</p>	<p>物質フローの変革から脱炭素への道筋を作るという社会展開を具体的なパートナー（企業等）と共同で実施することで、本プログラムのインパクトを強めて行きます。その中で、障壁となるトレードオフの存在に注視したいと思っております。</p>
<p>個々の研究成果の切り口が鋭いだけに、それが元にある大きな問題文脈に還元されてより広い研究や政策展開にまで繋がられるようになればさらに良いのではないかと考える。</p>	<p>「元にある大きな問題文脈に還元する」という思考に立って研究展開と還元を考え直すという取組は興味深いです。成果の新しい含意を見出すアプローチとしてぜひ試行したいと思っております。ご提案ありがとうございます。</p>

包括環境リスク研究プログラム

委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>国環研のこれまでの膨大な研究実績を基礎としたこのプログラムは、3年目となる今期にも数多くの良い成果が得られている。今後さらなる成果の蓄積と環境行政への貢献を期待する。</p> <p>腸内バランスの変容と疾病との関係について、環境汚染物質全般に対する総合的な影響として研究を進められると良い。</p> <p>脆弱な集団が、既に環境有害性因子による影響として喘息などが誘導されていることも考えられるので、体質的・家系的にアレルギーを起こしやすい集団を対象と捉えるなど工夫されると良い。</p> <p>東京湾だけでなく、琵琶湖でも行ってはどうだろうか。琵琶湖は、閉鎖性水域であり、環境汚染物質の影響が出易いように思う。</p>
今後への期待など	<p>ご提案ありがとうございます。今後とも、よりよい研究成果の蓄積と環境行政への貢献を進めてまいります。</p> <p>有害物質によって特異的な点はある一方で環境汚染物質全般に対する影響として捉えるべきとのコメントについては、留意して研究を進めてまいります。</p> <p>疾患を有する集団だけでなく体質的・家系的にアレルギーを起こしやすい集団に着目する視点についても参考にさせていただこうと思います。遺伝的要因による感受性差の問題は重要な課題であり、ヒトの知見も踏まえ検討してまいります。</p> <p>ご提案ありがとうございます。まずは地理的に近くデータが蓄積されている東京湾や福島県沖の研究を継続していければと考えていますが、弊所の琵琶湖分室や自然共生プログラムなどで研究が進められており、連携について検討したいと思えます。</p> <p>定量法について国際標準化が重要との指摘、まさにそのとおりであり、ありがとうございます。なかなか競争が激しい部分ですが、可能な限り進めてまいります。</p> <p>最終的なアウトプットがまだ見えにくい印象がありますが、今後のデータの統合や弾力的な研究の推進に期待する。</p> <p>ご指摘ありがとうございます。ご提案のデータの統合や弾力的な研究をさらに推進していきます。</p> <p>テーマを共同で立ち上げることを今後できるのではないかと思う。</p> <p>共同でのテーマについては、すでに各プロジェクト間で行っていますが、PJ5を中心にさらに進めていきます。</p>

自然共生研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	研究の全体構成がしっかり構築されており、統合的分析への道筋が見えており、良い成果が着実に上がっていることを高く評価する。	コメントありがとうございます。今後ともよりよい研究成果の蓄積を進めてまいります。
	外来アリ類の防除と検出の高度化では研究成果の社会実装まで進められていることを高く評価する。	ご評価して頂きありがとうございます。今後ともよりよい研究成果の蓄積と社会への貢献を進めてまいります。
	プロジェクトが対象とする生物や地域など、課題が関係する範囲が大きいことから、社会全体で取り組む体制作りもあると良い。また、一般にも研究成果を宣伝し、市民と考える機会が増えたら良い。	国レベルでは生物多様性国家戦略の策定やフォローアップ、JBO4 検討、30by30 アライアンスへの参画等を通じて施策と協働体制を構築するとともに、各ステークホルダーとの連携や広報・普及啓発活動など社会との連携体制を構築して進めており、さらなる体制の強化・拡充を図りたいと考えています。
	ネイチャーポジティブなど、国際的な生物多様性の動きにも確実にキャッチアップしている。UNFCCC、CBD ともますます重要になっていく分野であり、そのような世界的な流れも把握している。	コメントありがとうございます。今後とも国際動向の把握に努めていきます。
今後への期待など	世界的な課題となっている HWC について、今後の国際的な発信にも期待したい。	コメントありがとうございます。今後とも国際的な発信や研究成果の社会還元に貢献していきたいと思えます。
	TNFD が今後重要になってくることから、さらなる研究及びその成果の社会的活用貢献されることを期待する。	
	ヒグマ対策についても新たに取り組むことはできないのでしょうか。	ヒグマの行動範囲を考慮した個体数推定を行っており今後の管理につなげたいと考えています。
	外来生物が環境中に放たれることによる問題をもっと国民に知らしめると共に業者などへの有効な抑止制度の構築を行政に指導していただけるようお願いしたい。	構築した侵入種データベースの継続的な維持と更新、広報を行うとともに、行政や企業と協働した防除技術の開発と実装を今後も進めていきます。

脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	国際的に重要な課題であり、かつ日本としての対応が求められている課題であり、多くの研究発表や報道を通じた発表を行っていることは高く評価したい。政策や、環境に関わる科学的データとして重要であり、今後の検証も含めた議論を期待したい。	評価して頂きありがとうございます。ご期待に添えるようにこれからも必要な情報を公表し、議論していきます。
	できれば、環境研、環境省が主体となって、より脱炭素の加速に向けた政策提言を行い、政策立案、産業構造の改革、行動変容につながるようにしていただきたい。	地球温暖化対策計画の評価などを通じて環境省に報告していますが、さらに対策が加速できるように検討していきます。
今後への期待など	狭義の公共政策だけでなく、民間部門との連携を含めたコラボを強め、実装させていただくことを積極的に進めていただきたい。	社会実装に向けて民間部門との連携は重要と考えていますので、Win-Win となるような連携のあり方も検討、実践していきます。
	マクロの定量的な分析は議論の基礎である一方、それらと具体的な政策選択の間には様々な変数があるように思われるため、その間をつなげるような研究にも期待する。	コメントありがとうございます。ご指摘のとおり、本プログラムで行っているマクロな分析と現実に取り組まれている様々な対策や政策の間には乖離があることは認識していますので、そうした乖離を克服するような研究を進めていきます。
	NDC の延長では 2050 年までに脱炭素社会を実現することはできず、社会変容こそが追加費用の低減につながるとの予測に基づいて、国民一人一人の意識改革に向けての啓発を進められることを期待する。	気候市民会議に関わる所外の専門家や所内の対話オフィスなどから助言を得つつ、わかりやすい情報を従来の活字ベースの資料とともに動画やウェビナー等を通じて発信していく必要があると考えています。
	今後、熱の脱炭素化に必要な水素やアンモニアなどの導入シナリオが、より明確になり、政策に活かされることを期待する。	熱の脱炭素化については、重要な項目と考えていますので、電力とともにロードマップを明確にしていきたいと思えます。

持続可能地域共創研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	地球的課題に関連するものと過疎化などの地域的な課題まで非常に幅広く重要な研究が行われている。高齢化や過疎化は全国的な問題でもあるので、是非引き続き情報発信していただきたい。	ご評価していただきありがとうございます。情報発信に努めます。
	4地域で得られつつある研究成果を体系化して、どのように一般化していくことができるのか、説明があるとよい。	事例研究になりがちですが、一般化、水平展開、統合の取組も検討しています。
	運転手不足による公共交通機関の減少に対する対策といった社会問題も、国環研が対応すべき仕事なのでしょうか。	公共交通の減少は高校生以下や高齢者の移動手段を奪い、かつ自家用車に依存することになります。現状のガソリンなどの内燃機関の自家用車はCO ₂ や大気汚染物質の大きな排出減であり、排出削減が求められています。自家用車利用を削減し公共交通の利用を増やすことは、環境問題の観点から重要であり、国環研では古くから研究対象としています。
今後への期待など	現在、産業界や教育界では、持続可能な社会に関する多くの取組が行われていることから、将来的に連携の可能性もありうる。	国環研では取り組むのが難しい領域は、大学などとの連携が必要と考えます。各サブテーマでは大学や企業との連携を模索中です。
	地域における活動は成果が出にくいし、先方の協力体制など不確定要素も大きい。なかなか長期的な特定地域へのコミットメントは難しいので、現地の大学等と連携し、持続可能性を確保することは重要である。国立の研究所として、どのようにプロジェクトの始めと終わりをマネジメントするかの方法を示すと、大規模国立大学等の研究者の地方への関わりの良い手本となる。	文理融合を謳う長崎大学・環境科学部でも対馬での地域研究を行っており、年に一度程度情報交換を行っています。国環研は5年のプロジェクトですが、長崎大は各個人がもう少し長期での研究を継続するようです。予算のついでいる国立研究所のプロジェクトと、個人研究の色彩の強い大学の研究の違いが表れており、情報共有によって大学での地域研究の方法論の参考になるのではないかと思います。

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>災害環境研究では、特に原発災害で被災した福島県を中心とした厳選された研究テーマにじっくり取り組んでおり、今年度も優れた成果があがっていると評価できる。また、実状に対応しながら、今後起こるべく多様な災害に対応できるように研究が進められていることで宜しいと思う。</p>	<p>本取組について評価いただき有難うございます。アウトリーチ活動も含め、引き続き研究の進展に努めたいと思います。</p>
	<p>地域のレジリエンスを強くするためには、効果的な連携が必要であると考えられ、これらの成果の情報発信の方法などについて具体的な戦略が必要ではないかと考えられる。</p>	<p>地域に向けた成果発信の戦略として、災害環境研究と地域の環境保全に係る他分野（エネルギー、廃棄物等）との連携は重要な観点と考えています。</p>
	<p>放射性物質の県外処分については、受け入れ側に注目したシナリオの研究も必要かもしれない。</p>	<p>放射性物質の県外処分については、受け入れ側に着目したシナリオとして、受け入れ（処分）先のベネフィットや合意形成等の社会的要因を含めた多面的評価を実施する予定です。</p>
	<p>復興について、多様なステークホルダーの意見を聞くプロセスはあるというお話でありましたが、具体的には誰を指すのかということも重要である。帰還率が低い中で、女性、子ども、避難中の方、などの Well-being や自由な意思決定を尊重した上で押し付け型ではないレジリエンスを考えることがとても重要だと思う。</p>	<p>私たちには、女性・子ども・避難中の方、などの政治的影響力を行使しにくい状況にあるステークホルダーの立場を尊重・擁護しながら、浜通りの地域社会における復興や地域政策に向けて、上記を含む多様なステークホルダーが自由に意見を表明できる対話の場・協議の場づくりの仕組みを考え、提案することが求められていると考えています。</p>
今後への期待など	<p>今後、地震に加えて風水害のリスクも高まる中、災害環境学がますます重要になることから、災害環境学確立に向けた取組みの加速を期待する。</p>	<p>ご期待ありがとうございます。本プログラムでの取組と成果を反映させることで、災害環境分野において災害環境学の確立を目指す所存です。</p>
	<p>国際的な研究プラットフォームを構築し、世界的な拠点としての発展を期待する。</p>	<p>海外への発信を積極的に進める中でコミュニティの形成を図り、プラットフォームの構築を目指していく所存です。</p>

気候変動適応研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	体系的にプロジェクトが構成され、プログラム全体として大変多くの研究が進んでおり、それぞれの研究成果は非常に興味深い。さらに、実用的な示唆も含む、非常に多くのアウトプットを出しており、その点も大きく評価できる。	ご評価いただきありがとうございます。今後も着実に成果を創出すべく努力してまいります。
	地域気候変動適応センターとの連携の向上および国民への情報発信に関連して、理学的成果を社会に発信できる人文社会系の人材の強化も必要かと思えます。	人文社会系の人材確保には苦戦しておりますが、あきらめずに体制強化に努めていく所存です。
	暑熱健康リスクについて、政策的介入の必要性などにも言及すれば、現場の政策担当者も認識しやすいと考える。	政策にも活かせる研究となるように努力してまいります。
今後への期待など	適応は現実的に必要で大事なプログラムであるが、現象解明、緩和と適応の3つの融合的な実施が大切で、特に緩和に関しての提言と検証を日常的に行うことが肝要だと考える。	気候危機イニシアティブなどを活用して検討を進めていく所存です。
	「適応学」の体系化については、適応という問題領域の意義や特徴について共通理解を促し研究・対応の進展をもたらすものとして大きく期待する。	適応策の方法論および適応学の体系化に関しては、今中長期で一定の成果が創出できるように努力を積み重ねていく所存です。
	国際的なビジビリティを確保し、欧州中心のルールメイキングにも参加できるような人材の育成も重要であると考えます。	支援業務（気候変動適応法（平成30年法律第50号）に基づく、気候変動影響及び適応に関する情報の収集・整理・分析・提供などを通じて各主体による適応に関する取組支援業務）も含めて体制強化に努めてまいります。
	社会的な要因との関連が考えられる現象については、得られた結果を生かすために早期の情報公開や連携が必要になるプログラムかもしれない。	
	地域気候変動適応センター毎に職員の能力に差があり、助言が有効に働かない事は問題が大きいため、早急に対策を取られるように働きかけてください。	

気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	気候変動に関わる研究プログラム、さまざまなステークホルダーなどを相互に連携し、一体的に推進するための役割を果たして、社会への情報発信も含め、大きな成果を挙げている。ますます重要性が高まる取組である。	ありがとうございます。これからもご期待に添えるよう取り組んでまいります。
	IPCC シナリオは、多くの研究者、国民が関心を持っていると考えられるため、できるだけ広い年齢層を対象にした情報発信があると良い。	コメントありがとうございます。シナリオの情報発信は、今後はより広い層に向けて行っていくのが検討課題だと認識しています。
	つくば市の気候市民会議は結構な労力が必要であり、同じような取組について積極的ではない自治体も多いと思う。あるいは脱炭素には積極的であっても市民の意見を吸い上げる事に関心がない市もあると思う。そうした市に、どのようなインプリケーションがあるのか知りたい。	つくば市の気候市民会議での経験を広く伝えることで、市民の意見の把握に前向きな自治体が増えることが第一の目的です。もちろん、困難な自治体もありますので、市民会議の簡易版や解決策の普及促進などは有力な支援策になると考えます。
今後への期待など	関係者による研究に関する情報共有を引き続き行いつつ、大型の予算の獲得や包括的な提言など、アクティブな活動を期待する。	大型予算獲得や包括的な提言については、次期中長期計画をデザインするときに、イニシアティブでの議論の成果が活かせるとうよいと考えています。
	民間での気候変動とモデルへの関心が高まる中、ぜひ企業等との対話、協働を AIM モデルチームと一体となって進めたいと思う。	コメントありがとうございます。企業等との連携については、4 プログラムが既に行っている連携について共有を行い、戦略を議論する予定です。金融との対話も次のステップを検討中です。
	IPCC の組織再編や影響力の向上に本イニシアティブ、および国環研が積極的なリーダーシップを発揮されることを期待する。	ありがとうございます。これからも積極的に取り組んでまいります。差し当たっては IPCC 第7次評価報告書（AR7）への貢献を目指していきたいと考えます。

衛星観測に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	温室ガス濃度のモニタリングなど、衛星観測事業は全球を理解する上で重要な事業であると考えられ、得られるデータの信頼性はその基礎となるため重要である。そのための取り組みが予定通りに進められていることは高く評価したい。	ご評価して頂きありがとうございます。今後ともよりよい研究成果の蓄積を進めてまいります。
	報道発表や、論文出版も多数行われており、情報発信として評価したい。	情報発信について評価いただき、ありがとうございます。これからも情報発信に努めてまいります。
	より、データの活用に対して、予算等がさけるようになると良い。	データの活用については、予算だけでなくマンパワー／人的ネットワークの課題が重要と認識しています。人的ネットワークの強化については環境省／JAXAに加えて、国内企業、他国の公的機関／国際機関などとのチャンネルも開いて試行錯誤を続けています。
	GOSAT と GOSAT-2 それぞれのバイアス補正により再現性が確認できるようになったことは、今後の研究継続のためにも有意義であった。GOSAT-GW においても、事前に相互比較を行って、早期に運用につなげることが出来ないものだろうか。	GOSAT-GW 濃度データの早期一般公開を目指して様々な準備作業を急ピッチで進めているところです。その一方で1号機、2号機と異なる原理のセンサ（分光計）であり、高い精度が保証されたデータの一般公開にはある程度時間がかかることにご理解いただきたいと考えています。
今後への期待など	国際貢献も大きい重要な事業の継続に努力が続けられていること高く評価する。地上検証地点の増加にも努力されているということで、引き続きの成果を期待する。	ご評価いただきましてありがとうございます。引き続き地上検証地点の拡大に努めてまいります。
	GOSAT-GW が打ち上げられると、さらに仕事が増えるので、若手研究者に過度な負担が増えないよう十分に配慮していただきたい。	若手研究者の負担軽減については、業務の効率化を中心に対応を模索していますが、シニア層の活躍（現役メンバーとの業務分担）にも期待しているところです。

エコチル調査に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	環境省の基本計画に基づいた調査として予定通りに調査を実施するとともに、結果の解析と発信を行っており重要な取り組みと考えられる。国民の健康に関する情報として、大変有用なデータであり、継続した調査結果として評価したい。	激励有難うございます。今後も尽力してまいります。
	一般市民への情報展開にも力を入れていただきたい。また、他機関と連携したりテラシー教育の必要性についても議論できると良いのではないか。	今後は参加者が中高生となることから、中高生に向けた情報展開を中心に工夫してまいります。
	長年に蓄積から、利活用、とりわけ政策展開にはあまり踏み込まれておらず、今後の課題と感じた。	エコチル調査の実施部門としては、まずはエビデンスの創出に注力しているところであり、政策展開への踏み込みまでは対応しておりませんが、PFAS や農薬の健康影響など疫学的エビデンスが求められているところであり、これらの成果発表に注力し、政策立案に貢献したいと考えています。
	大がかりなプロジェクトではあるが、予算も多く使用している。海外も含めた情報提供のプラットフォームに関しての整備の責務があると思われる。	エコチル調査から得られたデータについては個人情報の保護や参加者との同意状況等の観点等から十分な対応を取った上で、エコチル調査関係者以外（国内外の研究者）に対する共有を行う準備を進めてまいります。
今後への期待など	分析対象物質についてはある程度毒性が知られている物質が多い印象を受けるが、もし試料や調査の性格上可能であれば、より幅広い物質についても分析していただくとよいように思われる。	今後の分析対象物質については、曝露評価専門委員会等での議論や環境省からの意見を踏まえ、検討してまいります。
	環境と子供の健康に関する出生コホート国際作業グループ（ECHIG）や、国際小児がんコホートコンソーシアム（I4C）へ参加して、国際共同研究を推進されることを期待する。	エコチル調査の成果について国際的にアピールを進めていくとともに、国際的な連携の方針については環境省と協議しながら引き続き進めてまいります。